

TAC魚種拡大に向けたスケジュール

参考資料 2

● 新たなTAC管理の検討は、以下の2つの条件に合致するものから順次開始する。

① 漁獲量が多い魚種（漁獲量上位35種を中心とする） ② MSYベースの資源評価が近い将来実施される見込みの魚種

● 専門家や漁業者も参加した「資源管理手法検討部会」を水産政策審議会の下に設け、論点や意見を整理。

● 漁業者及び漁業者団体の意見を十分かつ丁寧に聴き、現場の実態を十分に反映し、関係する漁業者の理解と協力を得た上で進める。

<漁獲量の多いものうち、MSYベースの資源評価が実施される見込みのもの>

第1陣：利用可能なデータ種類の多いもの（Aグループ、Bグループ、Cグループ）

第2陣：利用可能なデータの比較的小さいもの（Dグループ、Eグループ）

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	漁獲量※
	改正漁業法施行				(現行TAC魚種) 累計 60.5%
カタクテイウシ	太平洋系群 対馬暖流系群 瀬戸内海系群	神戸チャート公表 説明会等 公表 検討部会 SH会合	SH会合 SH会合	SH会合 SH会合	比率(累計) 6.1 (66.6%)
ブリ			公表 検討部会 SH会合	SH会合	4.6 (71.2%)
イウルシメ	対馬暖流系群 太平洋系群	神戸チャート公表 説明会等 公表 検討部会 SH会合	SH会合 SH会合	SH会合	3.2 (74.4%)
マダラ	本州太平洋北部系群 本州日本海北部系群 北海道太平洋 北海道日本海	神戸チャート公表 説明会等 公表 検討部会 SH会合	SH会合 SH会合	公表 検討部会 SH会合 SH会合	2.0 (76.4%)
カレイ類	ソウハチ 日本海南西部系群 ムシガレイ 日本海南西部系群 ヤナギムシガレイ 太平洋北部 サメガレイ 太平洋北部 アカガレイ 日本海系群 ソウハチ 北海道北部系群 マガレイ 北海道北部系群	神戸チャート公表 説明会等 公表 検討部会 SH会合	SH会合 SH会合	SH会合 SH会合	1.8 (78.2%)
ホッケ	道北系群	公表 検討部会	SH会合	SH会合	1.0 (79.2%)
ムロアジ類	東シナ海			公表 検討部会 SH会合	0.9 (80.1%)
サワラ	瀬戸内海系群 東シナ海系群			公表 検討部会 SH会合 SH会合	0.7 (80.8%)
イカナゴ	瀬戸内海東部			公表 検討部会 SH会合	0.7 (81.5%)
マダイ	瀬戸内海中・西部系群 日本海西部・東シナ海系群 瀬戸内海東部系群	公表 検討部会	SH会合	SH会合	0.7 (82.2%)
	ベニズワイガニ 日本海系群			公表 検討部会 SH会合	0.6 (82.8%)
ヒラメ	瀬戸内海系群 太平洋北部系群 日本海北・中部系群 日本海西部・東シナ海系群	公表 検討部会	SH会合	SH会合	0.3 (83.1%)
フグ類	トラフグ日本海・東シナ海・瀬戸内海系群 トラフグ 伊勢・三河湾系群			公表 検討部会 SH会合 SH会合	0.2 (83.3%)
	キンメダイ 太平洋系群			公表 検討部会 SH会合	0.1 (83.4%)
	ニギス 日本海系群	公表 検討部会	SH会合	SH会合	0.1 (83.5%)

● 公表：資源評価結果の公表、神戸チャート公表：過去から現在までの資源状況を表した神戸チャートを公表、
 検討部会：資源管理手法検討部会、SH会合：資源管理方針に関する検討会（ステークホルダー会合）、説明会等：必要に応じ、説明会等を実施
 （検討部会、SH会合、説明会等の開催スケジュールはイメージ。必要に応じ、複数回開催する。）

● 資源評価結果は毎年更新される。
 ● 資源評価の進捗状況によって、上記のスケジュールは時期が前後する場合がある。
 ● 令和5年度までに、漁獲量ベースで8割をTAC管理とする。
 （遠洋漁業で漁獲される魚類、国際的な枠組みで管理される魚類（かつお・まぐろ・かじき類）、さけ・ます類、貝類、藻類、うに類、海産ほ乳類は除く。）

※ データ元：漁業・養殖生産統計（平成28年～平成30年平均）